

『今月の天候と農作業』

通巻第5531号
5月号
平成23年5月6日発行
宮崎県
宮崎地方気象台



【九州南部1か月予報】

向こう1か月の気温、降水量及び日照時間の各階級の予想される確率は次の通りです。

【確率(%)】

要素	予報対象地域	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	九州南部	20	40	40
降水量	九州南部	30	40	30
日照時間	九州南部	30	30	30

【概要】

天気は数日の周期で変わるでしょう。平年に比べ晴れの日が多い見込みです。

平均気温は平年並または高い確率ともに40%です。

<1週目の予報> 5月7日(土)～5月13日(金)

気圧の谷や前線の影響で雲が広がりやすく期間のはじめと後半は雨の降る所があるでしょう。(詳しくは週間天気予報をご利用ください。)

気温は、九州南部で高い確率70%です。

<2週目の予報> 5月14日(土)～5月20日(金)

天気は、数日の周期で変わるでしょう。

気温は、平年並または低い確率ともに40%です。

<3週目から4週目の予報> 5月21日(土)～6月3日(金)

天気は数日の周期で変わるでしょう。

<次回の発表予定等>

1か月予報：毎週金曜日 14時30分 次回は5月13日

3か月予報：5月25日(水曜日) 14時

普通作物

◆ 早期水稲

田植え後の低温の被害や、用水不足の影響を受けたところでは、生育が軟弱気味で分けつが平年より遅れています。1ヶ月予報によると、天気は平年に比べ晴れの日が多い見込みで、生育が進みますので、今後の管理については生育状況を十分観察し、適期作業に心掛けてください。

■1 水管理

分けつ等の生育が遅れている水田では、浅水管理を行い、水温と地温の上昇に心がけ早めに分けつを確保します。分けつが株当たり20本以上になったら、中干しを実施します。中干し期間は5～7日を目安とし、中干し後は走水を行った後、間断かん水に努めます。中干し前に溝切りを行うと、落水や入水が容易に行えます。

■2 病虫害対策

気温が上がる5月中旬になると、早い所では、いもち病の発生が確認されるようになります。補植用の苗は早く廃棄し、発生を確認したら薬剤による防除を行います。特に田植え時に箱施薬剤を施用していない場合は、早めに対策をとります。

■3 穂肥

平年ならば早い所では、5月中下旬から穂肥の時期となりますが、生育の遅れたところでは、特に幼穂の状態と葉色を確認して適期に追肥を行います。

◆ 普通期水稲

■1 田植えの時期と準備

標高が高く夏冷涼な西北山間地域を除き、ヒノヒカリを早植すると出穂が早くなり、高温による登熟障害で白未熟粒が発生します。これを避けるため6月20日を田植えの基準日とした育苗作業を行います。一方、晩生種のまいひかりは、生育期間が長いのでヒノヒカリより早い6月10日を基準日とします。用水の不足している地域では、計画的な配水で田植えの準備を行います。

■2 種子消毒と浸種

種子消毒でいもち病、イネシンガレセンチュウ、ばか苗の防除を徹底します。

ヒノヒカリは休眠が深いため、浸種を十分行わないと出芽が不揃いになりますので、水温15度の時は、浸種期間を7日にします。また、催芽を確認して播種します。

■3 播種後の管理

出芽及び緑化期は、高温になりやすいので、温度管理に注意し、こまめな換気を行います。

■4 防除

西北山間地域では5月上旬から田植えが始まりますが、いもち病、ウンカ類の予防のために移植時に箱施薬を実施します。

■5 除草剤

除草剤の使用については、ラベルの記載内容を守り適正に使用します。

◆麦類

5月中旬から収穫期となります。排水溝や収穫機械の整備など、早めに収穫作業の準備をしましょう。

(鎌田 博人)

果菜類

◆収穫後半のハウス内の管理

促成・半促成栽培のきゅうり、ピーマン等の果菜類は収穫後期となります。気温の上昇とともに、ハウス内の温度も高くなるため、かん水量を増やしていきませんが、それに併せてハウス内湿度も高くなり、病害の発生につながります。このため、整枝、摘葉等による残査はハウス外に持出し、ハウス内を清潔にするとともに、ハウス内の温湿度を下げるため、妻面サイドの換気を行うなど、栽培環境の改善に努めましょう。また、収穫した果実は直射日光を避け、風通しの良い所に置き、早めに出荷するなど品質保持に努めましょう。

◆収穫末期の害虫対策

栽培終了となるほ場においては、ウイルス媒介害虫であるスリップス類、コナジラミ類のハウス外への飛散を防止し、生

息密度を下げるため、収穫終了後に10日以上ハウスの蒸し込みを行った後、残渣を持ち出しましょう。

◆きゅうり

気温も高く、果実の肥大が促進されますので、収穫遅れのないよう適期収穫を行います。また、果実肥大とともに葉からの蒸散量も多くなり、草勢の低下や水分不足、ハウス内乾燥による先細り果や曲り果等の発生が懸念されますので、かん水や追肥による草勢維持に努めましょう。かん水・追肥の目安として、かん水量は2^リ／日程度で、追肥量はチッソ成分で0.2kg／日程度とします。着果数が多く肥大の悪い場合は葉面散布も効果的です。また、ハウス内の乾燥が激しい場合は、通路等への散水を行うなど生育環境の改善が必要となります。

◆ピーマン

茎葉が繁茂し、光線の透過不足等により白果の発生や赤果の発生が多くなります。また、成り疲れや着果の多いところでは樹への負担が大きく、うどんこ病の発生が懸念されます。適期収穫を心掛けるとともに、着果のない中枝や老化枝及び主枝上部の果実への光線を遮っている茎葉の整枝・せん定を行いましょう。また、ピーマンの根は乾燥に弱く、土壌水分が不足すると草勢が著しく低下します。こまめなかん水・追肥による草勢維持に努めましょう。目安としては、きゅうりと同様の管理となります。

◆トマト類

前月の主枝摘心により果実肥大は進みますが、ハウス内の高温は乱形果や着色不良の原因となりますので、ハウス内の温度を下げるために、換気の徹底に努めましょう。また、茎葉からの蒸散量も多くなり、かん水量も増やしていきませんが、一度に多量のかん水はハウス内の湿度を高め、裂果や灰色かび病の発生を助長しますので、少量多回数でのかん水を心掛けましょう。目安としては、1～1.5^リ／日程度のかん水量となります。

◆イチゴ

二次親株の採苗時期となりますが、炭そ病の発症が疑わしい株については、直ちに廃棄することが蔓延を防ぐこととなりますので、親株は多目に準備しておくことが大切です。また、本ぽにおいてうどんこ病やハダニが発生している場合には、苗に伝搬する恐れがありますので、育苗床を優先した作業手順としましょう。

◆夏秋果菜類

中山間地域を中心に、雨よけトマト、露地きゅうり等の定植期となりますが、定植後の活着をスムーズに行うことが、その後の作柄に大きく影響しますので、定植後1週間はこまめなかん水管理を心掛けましょう。

(郡司 孝幸)

葉茎菜類及びいも類

◆かんしょ

普通栽培の植え付け期です。スムーズに活着させるのが増収のこつですが、土壌が乾きすぎていたり、晴天日に植えると苗がしおれて活着が遅れます。適度な土壌水分で畦立てし、曇天日に植えると活着が良くなります。また、苗は採苗から数日経過した苗の方が活着が早くなります。

◆スイートコーン

上旬にハウスやミニハウス栽培が、また、中旬からは大型トンネル栽培の収穫期を迎えます。今年は低温や少雨の影響により、収穫期の遅れも予想されますが、アブラムシ、メイチュウ類の適期防除により商品性向上に努めましょう。また、収穫適期の幅が狭く品質(食味)低下も非常に早い品目ですので、早朝収穫の徹底と出荷調整時も品温を上げないよう品質保持に努めましょう。

◆にら

促成栽培の定植期に当たります。

にらの重要病害に白絹病があります。白絹病は軽い土壌で発生が多くなる傾向があります。そのため、火山灰土壌の畑で

は、定床を軽く鎮圧すると発生が少なくなります。また、未熟有機物の施用が発生を助長しますので、たい肥は完熟したものを使うようにしましょう。

◆さといも

中晩生種の普通栽培で、5月に出る芽は、親芋の芽です。2本以上出ているものは、大きい芽を1本残して、ほかはかき取ります。6月以降に発生する芽は子芋の芽ですので、これは残します。また、ほ場が乾燥すると生育が遅れるので積極的にかん水を行い、生育を促します。

◆らっきょう

下旬から収穫期に入ります。降雨後、土壌水分が多いときに収穫すると、腐敗の原因になりますので、晴天が続くときに収穫しましょう。また、ウイルスに感染した株を種球として残さないように注意しましょう。ウイルスに罹病した株は、ひとつひとつの球が小さいことと、球がぴったりとくっつき合っ、分けにくいことで区別できます。

◆たまねぎ

今月は収穫後半に当たります。収穫作業は天気予報に気をつけ、屋内に持ち込むまで晴天が続くときに行いましょう。普通、引き抜いた株は1日ほ場に置いて乾かし、翌日に屋内で葉や根を切って姿を整えます。選果場に持ち込むときは、さらにその翌日になります。

◆アスパラガス

ハウス半促成栽培の収穫期に当たりますが、上旬までには立茎してくるタバコ大のものを1株当たり5～6本残して成茎とします。収穫量が多くなるため、かん水と追肥により樹勢の維持に努めましょう。

(河野 健次郎)

果樹

■1 常緑果樹

◆かんきつ全般

今年は、表年に当たり、着花数が非常に多くなっています。冬季からの降水量が少なく、春季に施用した肥料が土壌中に浸透していないため、花器の充実不足から生理落果が多くなることが予想されます。摘果剤の使用は、生理落果の状況を見ながら慎重に行いましょう。

また、乾燥状態が続いたため、ハダニの発生が多い園が見られます。発生状況を確認し、早めの防除を実施しましょう。極早生温州の火山灰土壌でのマルチ栽培では、5月中～下旬がマルチ被覆の時期になります。園地周りから雨水が浸入せず、水はけの良い設置条件を確保し、過乾燥や減酸対策として、かん水施設を設置しましょう。

黒点病の発生源となるせん定枝や枯れ枝は、速やかに処分しましょう。

かんきつ類に被害を及ぼすゴマダラカミキリに寄生するカビを利用した、効果の高い防除資材が開発されています。設置適期が5月下旬から6月上旬です。普及センターやJAに相談してみてください。

◆完熟きんかん

4月の低温により、発芽がばらついた園が見られます。これにより、結果枝の充実がばらつくことが予想されます。窒素主体の葉面散布やたっぷりのかん水を行い、結果枝の充実促進を図りましょう。

◆マンゴー

5月から6月にかけては、本県産マンゴーの出荷最盛期です。施設内の湿度を下げることでヤニ果や病害果の発生防止に有効です。ビニルの開閉により、適切な湿度で管理しましょう。また、巻上げ機の故障等による高温障害がこの時期によく発生しています。ハウスの見回りや機械の点検に気を配りましょう。

収穫が終わった施設では、たっぷりとかん水を行い、樹勢回復を図りましょう。

■2 果樹園全般

草刈りは、樹と草による養分競合を防ぐとともに園内の害虫の密度を低くする効果があります。敷き草も雨による土壌の流亡や夏の高温・乾燥を和らげ、表層の細根を保護します。草刈りとその後の敷き草を実施しましょう。

(山口和典)

花き

電照栽培を行っている品目については、ここ数年、電球型蛍光灯への切り替えが進んでいます。蛍光灯の種類によっては、特定の波長が多く含まれるものもあり、光が施設外に漏れると隣接ほ場の作物に影響が出ることが予想されますので、遮光等の対策を行ってください。

◆夏秋ギク

育苗・定植・摘心・側芽の整理作業や消灯・再電照等の管理については、それぞれの作型に応じて計画的に行ないましょう。「フローラル優香」は系統によって節間の詰まり具合が異なることから、導入している系統に適したジベレリンの散布回数・濃度等を確認し、散布を実施してください。

◆秋ギク

採穂用親株の挿し芽は、作型と穂冷蔵の有無でスタート時期が異なりますので、所要日数を計算して計画的に作業を進めてください。揃った穂を余裕を持って確保できるように親株床の面積は十分確保しましょう。キクの腋芽は高温で消失しやすくなりますので、腋芽の伸びにくい品種・系統は親株床をできるだけ涼しくし、必要に応じてBA剤を散布するなど腋芽の消失を防ぎましょう。

◆スイートピー

莢の色が緑色から黄色に変わってきたら採種をおこないます。収穫した莢は風通しの良い日陰で乾燥させ、種子を取り出した後、選別を実施し殺菌剤で消毒後、冷暗所で貯蔵します。日光が直接当たる場所で乾燥させると、発芽率が低下する危険性がありますので注意しましょう。採種が終了したほ場は残さを速やかに搬出し、土壌消毒を実施しましょう。

◆トルコギキョウ・デルフィニウム

継続的に収穫が続きますが、日中の気温が高くなると花首や花穂が徒長して軟弱になったり草姿が乱れるので、遮光やハウス換気を徹底し、できる限り昼温を下げるのが重要です。中山間地域では段階的に播種が行われますが、発芽率を高めるために保温とかん水をしっかり行いましょう。

◆ホオズキ

次々に開花して結実しながら伸長を続ける時期になります。間引き・葉かきを行い良品生産に努めましょう。極端な低温や高温では、実の着きが悪くなるので温度管理に注意します。6月の着色期は防除期間が限られるため、ダニ、アザミウマ、アブラムシ類、うどんこ病等の病虫害防除は5月に定期的に行うことが重要です。マルハナバチの巣箱は日陰を作るなど、涼しい場所に置いてください。

◆シキミ

春芽の伸長～硬化時期になります。特に黒シミ斑点病やサビダニ類はこの時期の防除が重要ですので、確実に実施しましょう。

(中村 広)

畜産・飼料作物

5月は家畜にとって快適な季節となりますが、これからは梅雨や夏場に向かっての準備の時期でもあります。冬場に設置したカーテンや風よけの板等は取り除き、畜舎内の通風を確保しましょう。また、梅雨に入る前に病原菌等の増殖を抑え、衛生対策徹底のために再度、次の項目を確認しましょう。①踏み込み消毒槽の設置と薬液のこまめな交換 ②農場内への外来者の入場制限 ③畜舎内の消毒と定期的な清掃 ④敷料のこまめな交換 ⑤天気の良い日には日光浴をさせる。この他にもカビ等の発生を防ぐため、飼料タンクの破損等の修繕や湿度が低く風通しの良い場所に飼料を保管するなど本格的な梅雨に入る前に注意が必要です。

今月は飼料作物のソルガムの播種適期となります。イタリアンライグラスの後に播種する場合は残根が多く、除草剤の効

果を高めるための碎土、整地、播種後の鎮圧も充分に行います。ソルガムの根はトウモロコシより深く入るので多収を望むならプラウ耕を実施しましょう。

最後に毎月20日は「県内一斉消毒の日」です。韓国では「口蹄疫」が再発しています。二度と「口蹄疫」「鳥インフルエンザ」の発生がないように、伝染病の侵入から農場を守るための適切な衛生管理を継続していきましょう。

(小坂 昭三)

工芸作物

◆ 茶

■1 摘採と整枝

萌芽は平年並みの動きが見られましたが、その後の低温により生育は緩慢となっています。一番茶摘採は、早場では中～終盤に、遅場ではこれからとなり、生育～摘採期間が長くなる傾向にあるため、下葉の硬化が懸念されます。

特に、後半は晩生種との差がなくなり、摘採の集中が予想されます。摘採位置の調整や摘み遅れ等に注意し、欠陥のない良質茶生産に努めましょう。

摘採後の刈番・整枝は7～10日頃を目途に実施しますが、芽揃い不良な園では5日後と17～22日後頃に分けて行い二番茶芽にかからない高さで整枝し、茶芽の揃いを良くしましょう。

■2 茶園の更新

樹高が高く、枝条が細くなった茶園は更新が必要です。中切りは一番茶直後が望ましく、中切り位置は高さ40～50^{cm}、枝幹の太さ4～5^{cm}の位置を目安に実施します。また、枝が細かったり、低温被害が激しく不揃いな園では浅刈りや深刈り更新等で良質茶生産に努めてください。

■3 病虫害防除と施肥

クワシロの幼虫ふ化は初発を確認の上、初発後2週間後が防除適期となります。特に、雄繭が目立ち枝枯れが見られるほ場では効果の高い中切り同時防除を実施してください。

またスリップス、その他の害虫については、刈番摘採後～二番茶萌芽・開葉期に、飛散防止に注意の上、地区基準に準

じて実施します。

施肥は一番茶摘採前後に、速効性の化成肥料を遅れないよう施用してください。

(岩切健二)

◆しいたけ

■1 選別

乾しいたけは、規格表を参考に選別し、商品価値を高めて販売します。

特に3号以下のものや規格外品は、絶対に混ぜないように必ず十分な選別を行いましょ

う。保管は、湿気や害虫を防止するため、専用箱を用いて十分に密封し、湿度の低い冷暗所に保管します。

■2 本伏せ

今の時期の急な温度上昇の影響や、今年は少雨による菌糸成長の遅れが考えられますので、ほだ木の温度・湿度の管理に注意が必要です。仮伏せ中のほだ木は、しいたけ菌の活着が確認でき次第、排水や風通しのよい場所に組み替えます。

裸地伏せでは、直射日光による高温や乾燥を防ぐため、笠木を厚さ30号以上施します。

林内伏せでは、下刈や整理伐により風通しを良くし、庇陰が不足する場合は笠木等で補います。

■3 ほだ場管理

梅雨入り前に、防風ネット等の除去を行うとともに、ほだ場とその周辺の雑木雑草を刈り払うなどして、通風を良くします。また、倒れたほた木等の整理を行い、害菌の発生に注意します。

(田中 貴司)

◆葉たばこ

今月は、わき芽取り、心止、収穫等多くの作業が重なりますので、計画的に作業を行いましょ

- 1 中葉下位着位（旧下葉）は取り遅れがないよう、心止までに収穫し、それ以降の着位は、適熟葉収穫に努め

ましょう。

- 2 わき芽抑制剤は、わき芽の大きさと天候に注意し、使用方法を守って散布しましょう。また、農薬を使用した際には、野帳・使用実績票へ記入しましょう。
- 3 心止は、地力や樹勢を考慮して時期や深さを調整して行いましょう。心止後の花軸部やわき芽は放置すると、それらが病害の発生源となるため、必ずほ地外に持ち出し、適切に処理しましょう。
- 4 異物混入防止のため、ほ地のマルチ片の回収を行い、収穫の際には、マルチ片の混入に注意しましょう。
- 5 異臭・虫害防止のため、乾燥前に乾燥室の点検と空焚きを行い、作業場・貯蔵庫の清掃を行いましょう

(中矢恭輔)

■内容の詳細について

5月の天候と農作業の詳細内容について。執筆は県営農支援課及び環境森林課、日本たばこ産業南九州原料本部が担当しています。各作物の病害虫の防除対策、気象災害の事前事後対策等の詳細は最寄りの支庁・農林振興局（農業改良普及センター）へ

「今月の天候と農作業」はホームページにも掲載しています。

(<http://mawi.sakura.ne.jp/>)

なになに農業アラカルト

少雨に関する農作物管理

■〈普通期水稲〉

今後、用水不足により代かきや田植えの遅れで、育苗日数が延び、苗の徒長・老化・病害の発生が懸念されます。

1 育苗期から田植え時期にあるものの対策

(老化苗対策)

- ①育苗日数が延びることも想定し、播種量は厚播きとしないよう注意します。
- ②苗が伸びやすいため、温度管理は高温としないよう注意します。
- ③播種後25日を過ぎると肥料切れしてくるので、1箱当たり成分量で0.5g程度の窒素を追肥し、散布後かん水し葉やけを防ぎます。
- ④寒冷紗等で遮光したり、
苗箱の間隔を広げて通気を良くします。かん水は必要最小限にします。

(田植え対策)

- ①地域で協議し計画的な配水を行うことにより、代かき・田植えを実施します。
- ②水持ちの悪い水田では代かきをていねいに行い、また畦畔からの漏水を防ぎます。
- ③苗が軟弱徒長(草丈が23cm以上)で、移植作業に支障を来す場合は、第2葉の中央部(地面から15～18cm)で剪葉し植え付けます。
- ④ほ場内に通水用の溝を作り、短時間に水が回るようにします。

2 活着期から分けつ期にあるものの対策

- ①分けつ期は、2～3日毎に走り水程度のかん水で間に合わせます。
- ②ポリチューブ等の利用で、少量の水でも水が回せるようにします。
- ③除草剤の散布は、用水が十分に確保されるまで見合わせます。

向こう 1 か月間における農作物の主な病害虫の発生量と防除対策 (5月)

作物名	病害虫名	発生量	発生状況と防除対策
早期水稻	葉いもち	並	イネズヅウムシの成虫が10株当たり5頭以上のほ場、スクミリンゴガイの生息数が多いほ場では粒剤の水面施用を行います。施用に当っては水管理に十分留意し、水深が3cm程度になるように調整し、少なくとも4日間(薬剤によっては7日間)はかけ流しや落水はしないよう注意します。
	イネズヅウムシ スクミリンゴガイ	やや少 やや多	
野菜・ 工芸作物	アブラムシ類 ハスモンヨトウ	多 並	4月以降、アブラムシ類の発生が多い状況です。各種のウイルス病を媒介しますので、防除が手遅れにならないうちに早めに防除します。
冬春きゅうり (半促成栽培)	べと病 うどんこ病 褐斑病	やや少 並 やや少	うどんこ病は乾燥条件下で発生しやすいので、適正な温度・水管理に努めます。 シキイロアザミワによって媒介される黄化えそ病が、一部の地域で問題となっています。シキイロアザミワは、多発すると卵・幼虫・蛹・成虫の各態が混在し、防除が困難になるので早期発見に努め低密度のうちに防除します。
	シキイロアザミワ 黄化えそ病 (MY SV)	並 —	
冬春ピーマン	うどんこ病 斑点病	やや多 やや多	いずれの病害も発生が多くなると防除効果が上がりにくいので、予防・初期防除に重点をおきます。罹病した茎葉等は感染源となるので、適宜除去し園外に持ち出します。 害虫類は、気温の上昇とともにさらに増殖しやすくなるので初期防除に努め、中～多発ほ場では短い(7日程度)間隔で定期的に薬剤散布を行います。
	アザミウマ類	やや多	
冬春トマト	灰色かび病 葉かび病	やや多 並	灰色かび病の発生がやや多い状況です。罹病した茎葉は適宜除去し、園外に持ち出すとともに多発圃場では治療効果のある薬剤で防除します。 栽培終了時は、黄化葉巻病を媒介するカコナジラミ類の拡散を防止するため、蒸し込み等により本虫を死滅させた後に残渣を処分します。また、ほ場周辺の雑草・野良生えトマトは、病原ウイルスの感染源や本虫の増殖源となるので除草を徹底します。
	カコナジラミ類 黄化葉巻病 (TYLCV)	並 —	
果樹全般	果樹カメムシ類	—	ウメやモモなどの結実中の果樹類では、飛来に注意し初期防除を徹底します。
カンキツ (露地栽培)	そうか病 かいよう病 灰色かび病	並 並 —	そうか病、かいよう病に罹病している枝葉は、伝染源となるため徹底的に除去します。 灰色かび病の防除適期は落弁期です。また開花期から落弁期にかけての降雨は、本病の発生に好条件となるので注意が必要です。 ミカンダニは、要防除水準(寄生葉率30%あるいは10葉当り寄生虫数5～10頭)に達したら速やかに防除します。
	ミカンハダニ	やや多	
茶	炭疽病 カンザワダニ ハマキ類 チャノトリヒメヨコバイ チャノキイロアザミワ ツマグロアカスミカメ クワシロカイラムシ	やや少 やや多 並 やや少 並 やや少 やや少	カンザワダニ、チャノキイロアザミワは、多発してからでは防除が困難になるので、早期発見・早期防除に努めます。 クワシロカイラムシの薬剤散布量は、成園で10a当たり1,000リットルを目安に、枝幹に十分かかるように丁寧に行います。また、激発園で、ふ化最盛期が一番茶後になる場合は、中切り更新して防除すると有効です。
<p>1) 「発生量」は、過去10年間の発生量と比較して、今後の発生量がどの程度になるか予測したものです。</p> <p>2) 病害虫防除・肥料検査センターのホームページアドレスは、http://www.jpjn.ne.jp/miyazaki です。</p>			